

言語文化学科の地域連携：これまで、これから

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-05-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小二田, 誠二 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010114

言語文化学科の地域連携

これまで、これから。

人文社会科学部言語文化学科 小二田 誠二

地方国立大学の位置づけ、中でも、文系学部
の存在意義については、現在様々な議論がなさ
れている。人文社会科学部の場合、社会科学系
の学科では、いわゆる「まちづくり」事業への
参画を中心に活動が見えるし、社会学科では充
実したフィールドワーク教育の伝統があり、毎
年成果を積み上げている。これらに比べて、言
語文化学科の地域貢献、連携は、あまり話題に
上ることもなく、成果が見えにくい嫌いがある。
加えて、地域創造学環の発足など、学内の改革
もあって、学科と地域の関わりが埋もれてしまっ
ているような印象はぬぐえないのが現状ではな
いだろうか。

ここでは、そのような認識の上に、これまで
学科で行ってきた事業を振り返りながら、今後
を展望したいと考えている。

2016年度の人文社会科学部学部長裁量経費の
うち「社会地域連携活性化経費」として言語文
化学科で採用されたのは「名作エッセンス朗読
会」と「伝統芸能体験講座」の2件。ほかに「公
開講座活性化経費」として「中国人による中国
講座」が開催されている。ここに、学科教員た
ちを中心に組織されている翻訳文化研究会をは
じめとする公開講演会を加えることも出来るだ
ろう。これらは、ここ数年ほぼ毎年行われてい
る、地域に開かれた企画で、宣伝が難しく集客
に苦労がある物の、来場者からは好評を得てい
る。

これらの企画に共通するのは、基本的に「公
開イベント」であって、他学科、他学部が行っ
ているような調査協働といった連携のイメージ
とは異なるということである。

『みんなの大学』18号に安永愛教授が書かれて
いるように、多言語朗読会は、参加学生・教員

の苦労も多いが達成感も大きく、学科・学部を
超えた参加者が有り、学外からの来場者もあっ
て、こうした学習の意義を伝える貴重な場となっ
ている。残念ながら大学祭での再演は出演学生
が他の企画にも参加しているなど、参加が難し
かったこと、宣伝が不十分だったこともあって、
集客に苦労した。しかし、今後も静岡大学の名
物行事として継続され、定着していくことと思
う。

今年の芸能講座は、静岡出身の講談師田辺鶴
遊師をお招きし、体験を交えた楽しい会となっ
た。静岡ご出身と言うこともあって、聴衆は学
生より社会人の方が多く、むしろ、学生の集客
に課題を残すことになった。

芸能講座は、もともと全学の学生にむけて、
普段接することの出来ない古典文化に触れて貰
うと言う趣旨で、十二単・衣冠束帯の着付け、
舞楽等から始まり、広く地域にも開放する方向
を模索しつつ、浪曲、講談、能、琵琶、江戸手
妻、京劇、パンソリなどの公演を行ってきた。
静岡は、グランシップやSPACなど、古典を含
め、舞台芸術鑑賞の機会は決して少なくないが、
そのなかでもなかなか開催されない種類の芸能
を選び、解説や体験を伴う公演を、出演料を払
いつつ無料で提供するというのは、大学が地域
に提供できる重要な「貢献」の一つとして評価
されて良いように思う。

多言語朗読会にしても、芸能講座にしても、
毎年の競争的配分経費ではなく、安定的な予算
を組んで、大学発地域発信の名物として存続し
て欲しいし、こういう企画は教員ではなく、地
域創造学環やアートマネジメントの学生たちが
企画・運営を行うような態勢作りを期待してい
る。

さて、言語文化学科の地域連携事業は、これらとは別に授業の形でも行われてきた。比較文化研究室での昔話や民俗芸能の調査研究、言語学研究室による方言調査研究は早くから行われていたし、「情報意匠論」「静岡の文化」という学科共通科目では市民組織「あっぱれ会」と連携して様々な調査研究提言を行ってきた。また、授業以外でも、かつては翻訳コンクールとの連携や、県立図書館葵文庫の蔵書をめぐる研究と講座など、地域連携の形は公開イベント以外にも様々に存在していた。これらの多くも、今後は地域創造学環に引き継がれていくのかも知れない。しかし、日本を含む多言語で展開している言語文化学科のもつ可能性を考えたとき、他学科との連携も含めつつ、「言語文化」ならではの

地域連携のあり方を考え直してみるべき時期に来ているように思う。

実際、静岡市域だけをとっても、歴史文化の注目すべき材料は多く、文学語学関係を含め、図書や文書など、言語文化に属する手つかずの資料が大量に存在している。昔話や伝説なども改めて調査し、残していく必要があるだろう。町おこし、地域連携も、こうした文化的な材料を掘り起こしていくところから、大きなヒントを得ることが出来るのでは無いかと思っている。それには、学科が組織全体で、多くの学生・教員が地域と関わる仕組みを作り、報告書やネット配信、大学祭での展示や発表など、様々な機会を捉えて発信していく必要があると考えている。

直前告知！ 静岡大学で講演会！！

静岡大学人文社会科学部古典芸能講座

はじめての講演

御出演は、ご当地出身

田辺鶴遊さん

毎年、人文社会科学部が企画している古典芸能講座。
今年は、病を併して、静岡出身の演劇家、田辺鶴遊さんの登場です。
多くの大学生が講演を聞いたことも聞いたこともないという場が、今回は、大学の施設を会場に、実演も観劇、座談もあり、初心者にも楽しんで頂ける講演会です。もちろん、お茶会も用意してあります。ぜひお楽しみください。講演もぜひご参加ください。
平日開催、不便な場所ですが、お断りの旨の上、ご来場お待ちしております。お断り申し上げます。

【出演者紹介】

田辺鶴遊（たねはかくゆう）さん
静岡市出身。
1960年、花魁社屋敷の父の企画するイベントに出演。お倉子舞臺として活動。1987年、演劇団田辺一徳に参事。1998年、田辺舞臺として退團。2002年、演劇協会理事となり田辺舞臺を継ぐ。2008年、ニッポン。2010年、演劇没後、宝井琴峰一門となり、宝井舞臺と改名。2015年、豊田舞臺、田辺舞臺となる。
文化庁芸術祭参加、公演多数。今年9月には演劇座長舞臺で「田辺舞臺講演会」を開催。また、「山根長政」などの静岡舞臺の物語、「町奉行六郎」などの演劇物に参画中。

申込不要 入場無料 学生者大歓迎。
日時：2018年12月2日（金）16:05～17:35
会場：静岡大学 共通教育9棟501教室
静岡市駿河区大宮836（駐車場は限りません。公共交通機関をご利用下さい）。
問い合わせ（メールでお断りします）：人文社会科学部 小二田真二 konitaseiji@shizuoka.ac.jp

※ この事業は人文社会科学部学長監修・製 社会地域連携活性化推進の助成を受けています。

本学生による6ヶ国語の講演会！

静岡大学
人文社会科学部主催

名作エッセンス朗読会

入場無料！

日本語付き

10月28日（金）
17:00開演（16:30開場）
静岡大学（静岡キャンパス）
大学会館3Fホール

（主催）名作エッセンス朗読会チーム（静岡大学人文社会科学部学部長監修「社会地域連携活性化」推進によるイベント）
（お問い合わせ）花青舎行/TEL: 054-243-3333 / E-mail: jkhanag@ipc.shizuoka.ac.jp